

目の不自由な人のための放送現場での配慮 [ガイドライン]

1. 外国人が話している画面、または、ボイスチェンジャーが使用されている画面のとき

ニュース番組などで、外国人が話しており、話の内容が字幕で表示されているとき、目の不自由な人にとっては、外国語しか聞こえていません。また、ボイスチェンジャーを用いて日本人の声を偽っており、話の内容が字幕で表示されているときも、目の不自由な人にとっては内容を理解することが困難です。

[解決法]

アナウンサーやキャスターが字幕を読み上げてください。

もし、肉声を放映したいという目的の場合は、その目的が達成されないと思われますので、そのときは、副チャンネルで字幕を読み上げるようにしてください。

2. 現場の映像が流れているとき

臨場感を出すためなど、現場の映像が流されている場合、目の不自由な人にとっては、効果音のみが聞こえているかもしれません。

[解決法]

「画面では、被災者がヘリコプターにより屋根の上から救出されています。」のようにアナウンサーやキャスターが説明を加えてください。

3. お天気図など図表で説明する場面のとき

番組中に天気図などが画面上に現れて、「本日の気温はご覧のとおりです」と説明されるときがあります。目の不自由な人には、必要な情報が全く入ってきません。

[解決法]

目の不自由な人が視聴していることを想定して、キャスターなどが内容を簡単に伝えてください。たとえば、「本日の東京の最高気温は10度前後、最低気温は0度前後でしょう。」など、主な地域の情報を伝えてください。このようにすることで、朝の身支度をしているときなど、晴眼者にとってもテレビ画面を見ていなくても情報が得られて役に立つと思われれます。

4. フリップボードなどでの説明のとき

解説番組や討論番組で、番組中に出演者がフリップに描かれた図表などを使って説明される場合があります。「これをご覧ください。たいへんなことが起こっています。」というように説明されると、目の不自由な人は十分理解することができなくなります。

[解決法]

説明者が、目の不自由な人が視聴していることを想定して、内容を簡単に説明しながら話すようお願いします。たとえば、「このように、〇〇党の支持者は60%で、△△党支持者は40%となっており、〇〇党の支持者が△△党の支持者を大きく上回っています。」というように、フリップに書かれた資料のデータの簡単に要点を説明しながら話してください。

5. 緊急放送が流れたとき

一般の番組が流れているときに、チャイムが鳴って、ニュース速報や地震速報が流れるときがありますが、画面上には字幕や図形で現れていても音声にならず、目の不自由な人には、何がおこっているかわかりません。

[解決法]

このようなとき、アナウンサーやキャスターが「ただいまのチャイムは、三陸沖で地震が発生したことをお知らせしたものです。」など、肉声で簡単に説明してください。